

新・東の風

令和6年度
3月号

本当に時間が経つのは早いもので、卒業式まで 2 週間を切りました。そして令和 6 年度もあと1か月で終わります。R6 年度 3 学期は R7 年度 0 学期、各自が次のステップめざして活動してください。

先月紹介しました本校卒業生ラグビー部の丹羽雄丸君(神奈川桐蔭学園)と川端隆馬君(大阪桐蔭)が高校日本代表に選ばれ、サンスポネットニュース(2 月 23 日)に取り上げられたので、紹介します。



奈良・天理親里ラグビー場(撮影・月僧正弥)(株式会社 産経デジタル)

3 月のイングランド遠征を控え、奈良・天理市内で強化合宿中(21~25 日)のラグビー高校日本代表は 23 日、昨季の関西大学 A リーグ優勝の天理大と 35 分 × 2 本の練習試合を行った。指令塔の SO には巧みなゲームコントロールと正確なキックで今冬の全国高校大会で桐蔭学園(神奈川)を 2 連覇に導いた丹羽雄丸(たける、3 年)が先発。23-31 で敗れたが、攻撃の要としてテンポの良い攻撃を演出した。

大阪市出身で、小 2 からラグビーを始めた丹羽は中学卒業後、桐蔭学園に進学。だが、23 年 6 月に眼底骨折、同 11 月には左前十字靭帯(じんたい)損傷など大けがが相次ぎ、復帰できたのは昨年 6 月。このため、年内の高校日本代表候補合宿に呼ばれるることはなかったが、花園での活躍が認められ、今年 1 月の代表候補合宿を経て最終メンバーに選ばれた。

チームを率いる桑原立監督(名古屋西高)は「アタックが魅力に見えるが、ディフェンスもできる」と評価。「見る人がワクワクするラグビーするが、彼なりの理屈があり、それをチームに重ねて力を発揮してほしい」と攻撃のリーダーを任せなど大きな期待を寄せる。この日は前半最初の 25 分間と後半最後の 20 分間に登場。

前半は大阪・東生野中の同級生の SH 川端隆馬(大阪桐蔭 3 年)と中学時代以来の HB 団を組み、後半はもう 1 人の SO 小林祐貴(慶應高 3 年)と“ダブル指令塔”の形で攻撃を指揮。前半は相手のフィジカルの強さに食い込まれる場面が多く、6-24 とリードされたが、強さにも慣れ始めた後半はボールをテンポよく動かし、逆に 17-7 と相手を上回った。だが、丹羽は「勝ちたかった。最初に押し込まれ、後半は少し修正できたが、取り切れなかったり、相手陣に入ってもカウンターでペースを取り戻された」と反省。「まだ一人一人の特徴をとらえ切れていないので、もっと話をしたり、プレーを見てチームメートの強みを引き出したい」と奮起を誓う。

今回の代表チームは敵地での U19(19 歳以下)イングランド代表戦(現地時間 3 月 22 日)を最終目標に掲げる。指令塔として「相手の時間とスペースを奪って戦いたい」とチームが目指すラグビースタイル『巧速』を体現し、強豪を擊破するつもりだ。(月僧正弥)

令和 6 年度東生野中学校の教育に関する生徒アンケートで、「将来の夢や目標を持ってていますか」に対しての好意的反応が 78.4% と全国平均より 10% 以上高くなっている。各自異なる夢ではあるが、獲得するために、この今(R7 年度 0 学期)を大切にしましょう。